

1章 マラヤ大学(University of Malaya)の大学間連携

1. 大学の概要と近年の動向

マラヤ大学は、1905年にマレーシアで最初に設立された高等教育機関であり、2005年に100周年を迎えた。クアラルンプールの郊外に372ヘクタールもの広大な敷地面積を誇っている。マラヤ大学の歴史は、キングエドワード7世医学カレッジ(King Edward VII College of Medicine)の設立(1905年)に遡る。1949年に、キングエドワード7世医学カレッジとラッフル・カレッジ(1928年設立)とが合併し、シンガポールとクアラルンプールにそれぞれキャンパスを保有していた。シンガポールの独立に伴い、シンガポール国立大学が誕生した後に、1962年にマラヤ大学が設立された。マラヤ大学の最初の学長は、最初の首相でもあるトゥンク・アブドール・ラーマン(Tunku Abdul Rahman)が務めた。

2009年2月、マラヤ大学のINPUMAが主催する高等教育のマネジメントに関する国際会議¹¹において、新副学長Gauth Jasmon氏は、“Rebirth of a World Class University: The Role of Leadership”というタイトルで報告した。その報告によると、「マラヤ大学は、Timesの高等教育ランキングで230位(2008年)であった。今後は国際的なジャーナルにおいて教員の引用回数を上げることを重点課題として、2年以内に200位、5年以内に100位以内を目指す」と述べた。このことから、マレーシアの他の大学と同様に、マラヤ大学も国際的な高等教育のランキングを上昇させることを非常に重要視していることが分かる。そして、マラヤ大学は、国際的な高等教育ランキングを上昇させる一環として、大学の国際化にも力を入れている。

また、マラヤ大学は、研究大学を目指すために、4年ほど前から、ファースト・クラス・バチェラーディグリーという新たな制度を設けている。この制度は、マラヤ大学の優秀な学部生が、修士課程を経ないで、博士課程に進学することができるというプログラムである。主として社会科学系分野で実施される場合が多い。

2008年6月現在、マレーシア出身の学部生17,353人、大学院生6,943人の合計24,496人が在学している。マレーシア出身の学生のほかに、留学生は学部生707人、大学院生1,969人

¹¹ マラヤ大学 INPUMA 主催の会議は、International Conference on Improving Higher Educational Institutions: Empowering Future Generations, 25-26 February, 2009, Malaysia.

人（78カ国）の合計 2,676 人が在学している。教員数は 1,918 人に上るが、副学長によると、研究大学を目指しながら「教員と学生の割合を適正化するために、学部学生を減少させること」を目標としている。

以下の報告は、マラヤ大学副学長 Gauth Jasmon 氏（2008 年 11 月就任）、国際協力オフィス（International Corporation Office）の副部長 Siti Aishah Hashim Ali 氏、同スタッフの Mahaganapathy Dass 氏、アジア・ヨーロッパ研究所の客員シニア・リサーチ・フェロー Mohd. Amir Jaafar 氏に実施したインタビューの記録に基づき構成する。インタビューの詳細は末尾に記すこととする。

2. マラヤ大学における高等教育の国際化の概要、留学生の動向

上述した INPUMA 主催の国際会議において、副学長 Gauth Jasmon 氏は、「世界の Top 200 にランク付けされた大学との関係を深めていきたい。欧米だけでなくイスラーム諸国、中東諸国も視野に入れている」ことを強調した。さらに、筆者が実施したインタビューにおいても、副学長は、「受け入れも送り出しも積極的に実施するが、短期プログラムに重点を置く。世界中を対象としているが、中東にも力を入れたい。ヨルダン、イラン、エジプト、イエメンなどが一例である。中東の人びと、とりわけアラブ諸国の人びとは、マレーシアがムスリムの国だということは知っているけれど、それ以上ではない。そのため、ぜひマレーシアがどのような国であるかについて理解してほしい。」と述べた。さらに、「豊かな人材、経済、資源を誇るインドネシアも、一つのターゲットになるだろう」と付け加えた。

国際協力オフィスの Siti Aishah Hashim Ali 氏によると、「マラヤ大学の留学生の特徴は、学士レベルではアジアからの学生が多い点である。たとえば、日本、韓国、中国、インドネシアなどからの学生が多く、マレー文化、マレー言語などを学んでいる場合が多い」とのことである。

マラヤ大学では近年、モビリティ基金（Mobility Fund）を設け、アジア（日本、韓国）とアメリカ合衆国などから積極的に学生を招いている。韓国からは非常に多くの学生が来ており、30 人近くがマラヤ大学で 1 セメスターの間滞在する。この基金によるプログラムでは、単位互換も確立しているため、「学生が時間を浪費することはない」と評価されている。

日本において、マラヤ大学と MOA を結んでいる大学には、筑波大学、広島大学、秋田国

際大学、名古屋大学、九州大学、京都大学、立教大学などが挙げられる。このような大学と交換留学プログラムを実施している。韓国とは高麗大学、仁濟大学 (Inje University) と新しい MOA を結んだばかりである。北京外国語大学(Beijing foreign university)との関係も密である。

2008年に留学生センター (International Student Center) を設立するなど、留学生を取り巻く環境を整備している。留学生センターにおいては、主に学部学生に対する福祉や寮のアレンジなどを行っている。

3. アジアの高等教育連携に向けたプログラム—アジア・ヨーロッパ研究所—

マラヤ大学が、アジア地域を対象として実施する学生交流プログラムの中に、短期で多国間を対象とする学生交流プログラムは現段階では存在しない。しかしながら、ASEAN University Network (以下 AUN) の肝いりで、アジア・ヨーロッパ研究所 (Asia-Europe Institute、以下 AEI) において実施される修士課程プログラムは先駆的な試みとして特筆に値する。

1997年から、AEIはホストとして、AUNのコンサルテーションのもと、ASEANにある21の主要な大学を対象とする修士課程プログラムを設けている。世界初のASEAN Studiesプログラムで、ASEAN文化を広めること、ASEANの人々が現在、過去、未来について理解を深めることを目標としている。2006年から、AEIでは、6つのコアコースを設置し、コースを修了した後に、International Master in ASEAN Studies(以下 IMAS)と International Master in Regional Integration(以下 IMRI)を授与する。

プログラムに参加する大学は限定されていないが、AEIのウェブサイトによると、2006年には、タイから6人、日本・韓国から各1人の合計8人がIMASに在学した。さらに、AEIで学術的研究と開発担当の副所長 (Deputy Executive Director, Academic Research & Development) を務める Hamiddin Hamid 准教授によると、2008年現在、IMASにはインドネシア1人、日本1人、ラオス1人、マレーシア2人、タイ3人、フランス1人、アメリカ合衆国1人が在学している。IMRIには、イタリア2人、日本2人、マレーシア6人、ベトナム2人が在学している。概して、ASEAN出身の院生が多いと言える。

プログラム運営の組織形態の特徴は、一部の教員を除いて、マレーシア以外の教員を雇用している点である。また、教員が、南アジア、東南アジアなどの地域や国別の研究室を利用している。ハミディン副所長によると、プログラムを準備し調整する過程は必ずし

も順風満帆ではなかったようであり、「2006年に新所長が就任してから、言わば“restart”した。その時、運営上の問題は山積していた。講師がほとんどいなかったことが問題の一つである。その後、ヨーロッパや ASEAN 各国やヨーロッパとのネットワーク化を促進してきた」とのことである。

学生のプログラム参加要件は、学部でよい成績を収めたことに加えて、TOEFL550が最低ラインとされる。入学申請は6月に締め切られる。よい成績を収めたことが重要視されるとのことである。

使用される言語は英語である。ただし、マラヤ大学全体の大学院生に対する規定により、すべての学生はマレー語のコースを受講し試験に合格しなければならない。

AEI が新たに設けたプログラムは、マラヤ大学における既存のプログラムとは独立したプログラムのように見える。しかしながら、マラヤ大学内のリソースを十分に活用している。特に、教員や財政的支援は、主にマラヤ大学が提供している一方、マレーシア政府も経済的に支援している。さらに、シンガポール国立大学にも、アジア・ヨーロッパ・ファンデーションがあり、AEI と提携している。

教育内容は、1モジュール2週間で行われる。1モジュールに対して、マレーシアからの教員と外国からの教員が携わっている。アジアだけでなくヨーロッパとの関係も緊密であり、国際的な修士号を提供する点が特徴的であると言える。

本プログラムは正規の修士課程プログラムであるので、単位互換は行われない。また、授業料も免除されておらず、AEI に対する特別な奨学金は用意されていない。そのため、各学生は、マレーシア政府奨学金、民間奨学金、私費などでまかなっている。AUN はあくまでもコンサルタントとしての役割を果たしているため、AUN からの奨学金は供与されていない。

4. AUN の学生交流プログラムと欧米対象のジョイント・ディグリー・プログラム

AEI による修士課程プログラム以外に、AUN との連携による学生交流プログラムも実施されている。

また、主に欧米の大学を対象として、2大学間によるジョイント Ph.D プログラムが実施される。その対象は、メルボルン大学、シドニー大学、ノッティンガム大学、ロンドン大学カレッジなどである。The Conference Des Presidents D'Universite(CPU)というジョイント Ph.D.プログラムも実施されている。本プログラムは、フランスの大学と、USM、

UKM などマレーシアの主要な大学も参加しており、2008 年から 2013 年まで行われる。

ただし、このような学生交流プログラムやジョイント・ディグリー・プログラムは 2 大学間で実施されており、アジアの大学のみを対象とするものではない。

5. まとめと今後の課題—アジア地域連携に向けて—

マラヤ大学は、積極的に大学の国際化を推進してきた。近年、マレーシアの他の大学と同様に、マラヤ大学は研究大学を目指しながら、国際的な高等教育ランキングでより高いランキングに位置することを目標としている。そのため、「今年中に、現状の外国人教員に加えて、300 人ほど外国人教員を増加していくこと」と、「留学生は、学部レベルで 5%、大学院レベルで 25%まで伸ばすこと」を目標として掲げている（国際協力オフィスとのインタビューより）。

本報告では、マラヤ大学で実施される国際化戦略の中で、アジアにおける高等教育連携について考察するための先駆的な試みとして、AEI において ASEAN 研究や地域統合を冠する修士課程のプログラムを紹介した。このプログラムは、東南アジア域内において、東南アジアの現状や課題について議論する場が用意されている上に、関連する修士号を取得できるという点で評価できる。しかしながら、マラヤ大学に留学してきたアジアからの学生に対する奨学金を充実させることや、留学生に対して授業料が免除されないことなど課題は残される。

また、国際関係オフィスの Siti Aishah Hashim Ali 氏は、アジア地域連携教育についての意見や課題として、「マラヤ大学は、APRU、AUN などへの活動に参加していて、既にアジア地域教育連携に対して積極的であると言える。今後は、イランに設立されたオフショア・キャンパスに続いて、北京などにも建設していく予定である」と述べた。このことから、マラヤ大学を拠点とするアジア地域の教育連携は、中国やイスラーム諸国との連携を中心に考えられていると言える。ただし、国内の大学数が限定されているマレーシアにあって、その頂点に位置するマラヤ大学では、国際化の進展が遅れがちである。上述した課題を克服しながら、今後アジア域内の教育連携のハブとして機能することが待たれるところである。

【参考資料】

University of Malaya Brochure

AEI Brochure

【参考ウェブサイト】

University of Malaya <http://www.um.edu.my/>

Asia-Europe Institute

<http://ccm.um.edu.my/ccm/navigation/academics/institute/asia-europe-institute/>

【実地調査概要】

①日時：2009年2月27日 12:00-13:30

対象者：副学長 Gauth Jasmon 氏

②日時：2009年2月27日 10:00-11:00

対象者：

- ・ Dr.Siti Aishah Hashim Ali, Deputy Director(Corporate Relations), International & Corporate Relations Office(ICR)
- ・ Ambassador(Rtd) Dato Mohd.Amir Jaafar, Senior Research Fellow(Visiting), Asia-Europe Institute.
- ・ Mr.Mahaganapathy Dass, International Relations Officer, International & Corporate Relations Office(ICR)

③補足（別の科研によるインタビュー）

日時：2008年8月25日 12:00-13:00

対象者：Associate Professor, Hamiddin Hamid

Deputy Executive Director, Academic Research & Development, Asia-Europe Institute

域を支える有為な人材を育成する。

(2) 拠点形成計画の概要

本拠点は、すでに 21 世紀 COE プログラム『熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点』において平成 15-19 年の間に以下に掲げるいくつかの熱帯病・新興感染症の教育研究に不可欠な基盤整備を行った。

- ・ 臨床医学、社会医学、病原体解析学、ベクター生態学から感染症にアプローチする科学者の糾合
- ・ アフリカケニアおよびアジアベトナムの常駐型海外感染症研究拠点の形成
- ・ 多様な感染症研究者育成プログラム（熱帯医学修士、健康開発修士、感染症研究者博士課程コース）確立
- ・ 国際機関（WHO 等）、国内外の機関との密接な連携（国際感染症ネットワーク）

本計画では、こうした優れた基盤の更なる充実を図り、感染症教育研究拠点を構築する。

・ 研究計画

拠点の目的を達成するために 5 年間の目標を以下のように設定する。ただし対象とする感染症を 1) HIV/エイズ、2) マラリア、3) 感染症、4) 見捨てられた感染症、5) 新出現ウイルス、6) プリオン病に絞り込む。

- ・ 基礎研究 新しい診断治療戦略の開発（分子細胞レベル基礎研究、病体生理研究）

Evidence に基づく新しい戦略の創出を行う。感染症対策に資することを目的とした新しい科学的な発見を行う。具体的には、分子疫学、病原体宿主生物学、媒介昆虫学、生態学、治療学を応用した学問領域などが含まれる。

- ・ 医薬品開発研究：新しい技術の創出（開発研究、臨床介入研究）

現場のニーズを知る。民間セクターと公的セクター、および大学の連携を行う。この連携を基盤に新しい技術の創出を行う。具体的な領域としては、シーズ開発（薬剤、ワクチン、診断薬）、毒性学、臨床開発が含まれる。

- ・ 社会技術開発研究：新しい戦術の創出（ソーシャル・マーケティング、フィールド疫学研究）

政治・経済・社会・文化的背景を考慮した新たな感染症制御戦術の創出を行う。基礎研究や医薬品開発研究は、こうした社会技術の応用を用いることによって始めて、それを必要とする人々の手に届くものとなる。具体的には、医療経済学、教育学、政治

学、文化人類学といった人文・社会科学と公衆衛生学が深く連携した学問基礎となる。そうした意味において、社会技術開発研究は、本拠点のユニークな学問領域となることが期待されている。

人材育成計画

上記の研究開発分野で将来の担い手となる研究者の育成のための大学院教育、ポストドク、テニュアトラックシステムをさらに整備・拡充する。本領域では、医学のみならず保健学、薬剤学、公衆衛生学、社会医学、文化人類学、教育学、環境科学を含む複合保健学領域の教育を行う。そのために必要な教員として、多彩な人材をリクルートする。

ガバナンス

ガバナンス体制として学長の直下に拠点リーダーを位置づけ、拠点リーダーは拠点内に COE 推進委員会、人材育成部会、研究推進部会を組織し事業推進担当者を統括する。大学本部組織である国際連携研究戦略本部は海外拠点の運営や国際人材交流を専ら担うなど、大学全体で強力な協力運営体制を敷く。バーチャルでない実体ある機動的な組織としての充実を図り、包括的な新戦略の実践を可能とする。

長崎大学 副学長 国際連携研究戦略本部（CICORN）本部長、

熱帯医学研究所病害動物学分野教授 高木正洋氏、

長崎大学 熱帯医学研究所教授 森田公一氏、熱帯医学研究所教授 山城哲氏、

長崎大学 国際連携研究戦略本部事務室 松田正浩氏からいただいた資料、およびインタビュー記録による（2009年1月30日実施）。

【参考資料】

・「ベトナムにおける長崎大学感染症研究プロジェクト（新興・再興感染症臨床疫学研究拠点）平成19年度評価」平成20年2月。

・「ベトナムにおける長崎大学感染症研究プロジェクト（新興・再興感染症臨床疫学研究拠点）プロジェクト概略」

・ベトナムの日本人 山城哲さん（微生物学者/長崎大学熱帯医学研究所・教授）「感染症の制圧にベトナムでの研究から貢献したい」

<http://www.vietnam-sketch.com/column/japanese/2008/12.html> より。